

kaede

kaede ✨ wagaracosme



～ 和柄×コスメ ～

Target

10代から20代前半の若者と海外の方

Concept

日本の伝統文様を廃れさせてはいけないという思いがあります。
日本の行事や習慣から生まれた伝統文様の意味や由来、歴史的背景や
伝統文化および、伝統文様の奥深さをもっと知ってもらいたいと思います。

Evidence

- 日常的にメイクをする人の割合が多いこと
- 男女問わず使用することができる
- メイクを始める年齢が若年化してきた
- 最近では通販サイトで海外のコスメが手に入りやすくなった
コスメなら若者や海外の方の目を引くキッカケになるものができるのではないかと考えた。

伝統文様に少しでも興味を持ってもらえるような『和柄×コスメ』のブランド
知ってもらうためだけでなく、持っていて気分が上がる、ほしいと思ってもらえる
ようなデザインを制作した。



ブランドキャラクター

和賀蘭 つむぐ

kaede

kaede ✨ wagaracosme



つながる春



まっすぐな夏



まもられる冬



つきすすむ秋



つながる春



しっぽう 七宝

引用先:日本の内装材料辞典、京都ないうや

この文様は円と縁を掛け“縁のつながり”とし、人と人の関係が無限につながっていく、また子孫繁栄で家が大きくなっていくという意味がこめられているといえます。

平安時代には宮廷や貴族の衣類や調度品の有職文様としても使われ、当時の唐紙に木版で摺られたものが存在します。

まつすぐな夏

あさは
麻の葉

引用先:日本の内装材料辞典、京屋

柄安時代から仏教の尊像の衣服の図柄に使われていました。

江戸時代頃の浮世絵では幼児の産着でもこの文様が描かれており、麻の葉は真っ直ぐにグングン成長して行くため、麻の葉柄には子供の健やかな成長の願いが込められています。

また、この柄には魔除けの意味があり、産まれて最初の産着には麻の葉文様をつける風習が生まれました。



つきすすむ秋



やすがり

矢絰

引用先:日本の内装材料辞典、さもの用語大全 Powered by 創美苑

弓で射た矢は戻らないことから、「出戻らない」の意味をこめて、江戸時代の嫁入りの支度に矢絰の着物を持たせたといえます。戻らないこと、まっすぐに突き進むことから、縁起柄とされています。

明治～大正頃には女学生の定番衣裳として、矢絰の御召とえび茶色の袴の組み合わせが流行しました。卒業式でのスタイルに矢絰と袴が広く知られています。

まもられる冬



かごめ 籠目

引用先:日本の内装材料辞典、京屋

六芒星が見えることから邪気を払うとされ、昔から魔除けの意味を持つとされています。

天保12年の『用捨箱』には「昔より目籠は鬼のおそるといひならはせり」とあり、戸口に籠を吊るして邪気を祓い厄災を免れるとあります。

幼児のお宮参りに籠目のざるをかぶせた犬張子を贈る習わしも、魔除けとして子供の無事息災を祈る親心であったとされています。



— 和柄とつむぐ世界 —



kaede * wagaracosme

kaede * wagaracosme

グラフィックデザイン科
イラストレーションコース
増田楓